

## 令和 4 年度 学校運営連絡協議会実施報告書

## 1 組織

- (1) 都立八王子北学校 学校運営連絡協議会 (全日制課程)
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主任兼務)=事務局長、教務部員 2 名 計 3 名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画課 (室) 長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、進路指導主任、保健主任 第一学年主任 第二学年主任 第三学年主任 計 1 0 名
- (4) 協議委員の構成 (氏名の掲載も可)  
東京都立大学 大学教育センター教授、東京都立八王子北高等学校 P T A 会長、八王子市立四谷中学校 校長、警視庁八王子警察署少年第一係長、檜原西部町会長、八王子消防署檜原出張所所長 計 6 名

## 2 令和 4 年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会 (第 1 ~ 3 回) の開催日時、出席者、内容、その他
  - 第 1 回 令和 4 年 7 月 1 日(金) 内部委員 1 0 名、協議委員 6 名  
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出  
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題  
本校の現状と課題等説明、意見交換
  - 第 2 回 令和 4 年 1 2 月 3 日(金) 内部委員 1 0 名、協議委員 5 名  
校長報告、各分掌中間発表、学校評価アンケートの内容について、意見交換
  - 第 3 回 令和 5 年 3 月 1 0 日(金) 内部委員 1 0 名、協議委員 6 名  
校長報告、各分掌最終報告、学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議、意見交換
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
  - 第 1 回 令和 4 年 7 月 評価委員 2 名  
学校評価の基本方針の確認、今年度の学校評価の実施に向けた検討
  - 第 2 回 令和 4 年 9 月 評価委員 2 名  
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
  - 第 3 回 令和 5 年 3 月 評価委員 3 名  
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

## 3 学校運営連絡協議会による学校評価 (学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点
  - ①本校の経営計画に基づいた教育活動に対する生徒・教職員および保護者の理解度を把握する。
  - ②生徒の学校に対する評価および生徒自身で成長の度合いを理解する。
  - ③地域社会の評価から教育活動を対外的に把握するとともに、その改善に取り組む。
  - ④基本的な学力向上を目標に、生徒の学習に対する意識や家庭での自主的な学習時間の実態を把握する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
  - ・ 1 2 月 全校生徒 対象：5 5 6 人/5 9 7 人
  - ・ 1 2 月 保護者全員 対象：1 1 3 人/5 9 7 人
  - ・ 1 2 月 地域・住民 対象：2 6 名
  - ・ 1 2 月 教職員 対象：3 9 名
- (3) 主な評価項目
  - ①生徒対象・・・ 授業、生活指導、特別活動、進路指導、学校生活
  - ②保護者対象・・・ 授業、生活指導、特別活動、進路指導、学校生活(対生徒・対教師)、その他
  - ③教職員対象・・・ 授業、生活指導、特別活動、進路指導、学校生活(対生徒・対教師)、その他
  - ④地域住民対象・・・ 地域での学校の知名度・生活指導・部活動・開かれた学校づくり・本校への評価
- (4) 評価結果の概要
  - ・生徒はおおむね本校の教員の授業について満足しているが、1 学年は新課程になったということもあり、否定的な意見がやや増えたが、教員が試行錯誤をしていることを考えると、今後さらなる期待がある。
  - ・生活指導は、生徒、保護者の中には一部の校則規制を緩和するような意見もあった。

#### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

##### （1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ①今年度もマイクロソフトの FORMS を利用した学校評価アンケートを実施した。日頃の教育活動で TEAMS を利用しており、担任団等の協力もあり、生徒・教職員の回収率を向上できた。早期回収が来年度への課題である。
- ②昨年度同様、回答選択肢に「わからない」を新設した。その結果、昨年度と比較しにくいケースもあったが、本アンケートにより学校運営に関して、多くの方々から率直な意見を頂戴し、家庭・地域との協力体制づくりに必要なデータが得られた。
- ③地域対象アンケートから全般的に高い肯定的評価を得ることが出来たが、「わからない」と回答した割合も少なくない。今後もPR活動を推進して行く必要がある。
- ④今回のアンケートでは、概して高い評価を得られているが、今後も、生徒の高校生活を充実させ、高校生を力を活かした地域活動の中核とすべく、本協議会の活動を充実させていきたい。

##### （2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ①生徒が「わかる」を実感でき、「考え方」を学び、主体的に学力を伸ばしていく授業を目指して、授業内容・方法をさらに工夫し実践していく。
- ②授業以外の学習時間が30分未満の生徒が70%程度にのぼる一方で、通信機器の使用時間3時間以上が70%程度になる。これは昨年度よりも10%程度増加しており、自主的な学習習慣確立が今後も課題である。家庭学習習慣の定着を図る取り組みを続ける必要があり、宿題や課題を定期的に出すなど工夫をする必要がある。
- ③募集対策を見据えながら、PR活動をさらに充実する必要がある。
- ④大学・専門進学者が増えており、受験方法も推薦だけでなく、総合型選抜や一般受験に挑戦する生徒も増加傾向にある。大きくなりつつある進路指導への期待に応えるべく、さまざまな進路指導の取組などにより、進学実績も向上しているが、進路希望を実現できる授業の充実が求められている。また就職希望者の就職率100%を維持する必要がある。
- ⑤生徒の自主・自立を育てていく生活指導を継続・発展し、コミュニケーション力・プレゼンテーション力など、社会人としての基本的能力の向上が必要である。
- ⑥従来、小・中学校及び地域社会との連携が学びの場を広げるとともに、地域に生きる学校としての自覚と活動が、生徒の自己肯定感高揚につながってきた。今後も、感染症の推移を見据えながら、積極的に地域活動を取り入れる仕組みを構築していく必要がある。

#### 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

##### （1）学校運営

「期待される学校像」の実現を目指し、組織的な教育活動をさらに進める。適切な予算管理と効率的な予算執行を行うとともに、安全な学校生活を図るため施設設備の維持管理をさらに推進する。

##### （2）学習指導

- ①今後も、少人数指導や習熟度指導などを活用し、基礎基本を徹底して学力向上を図るとともに、希望が高まりつつある大学進学等に対応した授業を展開し、生徒の進路希望実現を図っていく。
- ②家庭における学習時間を確保するため、保護者と連携しながら、「自主的」な学習習慣の確立を目指して、学校全体として取り組んでいく。

##### （3）特別活動

コロナ禍前に戻りつつある状況であるが、予断を許さぬ状況である。今年度の北斗祭は入場制限があったが対面で実施をすることができた。また、修学旅行を実施することもできた。感染症の推移を注視しながら、生徒の主体的な活動を支援し、部活動をさらに活性化させる必要がある。

##### （4）生活指導

- ①保護者と連携して、基本的な生活習慣・規範意識の指導を徹底させるとともに、地域での規律、マナーの指導をさらに推進する。
- ②コロナ前の学校行事への期待が大きいので、次年度について検討を重ねていく。

##### （5）進路指導

オンライン等を併用しながら、キャリア教育の一層の充実を図る。今後は社会情勢を見ながら、インターンシップ・上級学校訪問・授業体験の機会をより充実させ、将来への展望を持たせる進路指導を継続する。また、日々の授業を大切に作る姿勢を育て、進路希望実現に必要な学力を育成していく。

(6) 保健指導

- ① スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーと連携して教育相談を推進し、カウンセリング・アンケートやケース会議などに取り組んだ結果、学校評価アンケートでは高い肯定的評価を得ている。生徒・保護者の期待が大きく、今後も継続していく必要がある。
- ② 感染症対策を中心に、健康管理や健康増進、ごみの分別や持ち帰り指導を推進した。生徒の健康意識が高まり、生活習慣の向上につながっていると思われる。今後も指導の徹底を図っていきたい。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 6人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	2					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 なし

【成果】 なし

8 その他

- ・ 保護者のアンケート回収率を更に高めるため、質問内容を含め検討の必要がある。
- ・ 評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。